

観施委第 22 号下呂温泉合掌村冬季夜間回遊・受入環境実証業務 プロポーザル審査評価基準

本業務の受託候補者の選定にあたっては、以下の評価項目及び配点に基づき、審査委員会において総合的に評価を行う。合計 100 点満点とし、総評価点の 6 割（60 点）を満たさない場合は選定の対象としない。

大項目	評価項目	評価の視点（着眼点）	配点
1 実施体制・地域連携 (20 点)	同種・類似業務の実績	・過去 3 年以内に「オーバーツーリズム対策」「観光地受入環境整備」「観光交通実証」等の受託実績が十分にあるか。	5
	実施体制と現地推進力	・積雪寒冷地での夜間運行実証とプロモーションを一体的に遂行できる体制があり、市内法人交通事業者との連携体制が確保されているか。	5
	地域連携・合意形成力	・協議会（オーバーツーリズム未然防止協議会等）運営支援、観光協会・旅館組合・地元事業者等との迅速な合意形成・進捗調整を行える現地推進体制があるか。	10
2 企画・提案内容 (60 点)	業務の理解度	・本業務の目的（混雑緩和、夜間回遊率 60%達成等）、観光庁からの本事業採択内容を踏まえた提案になっているか。	10
	安全輸送・周遊計画と KPI 達成への具現性	・最適周遊ルート・運行ダイヤ設計、安全管理体制、デジタル動態管理の手法が極めて具体的か。 ・目標 KPI（夜間バス利用 3,500 人以上）を確実に達成するための仕掛け・根拠があるか。	20
	多言語受入・プロモーションと KPI 達成への具現性	・多言語パンフレット（1,000 部）、KOL 発信（3,000 人視聴）、多言語サイン（QR 利用 1,000 人）等の企画が魅力的かつ具体的か。 ・各種 KPI 達成に向け	15

		た誘導施策・アプローチが効果的か。	
	事業効果検証と自走化モデルの策定	・アンケートや人流データ分析、支払意欲（WTP）調査等の多角的な検証手法が妥当か。 ・次年度以降の受益者負担型運営モデル（協力金制度等）の設計および自走化への提案が具体的で実効性が高いか。	15
3 工程・費用対効果 (20 点)	工程計画の妥当性	・履行期限（令和 9 年 2 月 22 日）までの準備・運行実証・効果検証・報告書作成等のスケジュールが無理なく確実に実施可能か。	10
	経費積算と費用対効果 (アセット活用)	・委託上限額（8,800,000 円）の範囲内で経費の内訳・根拠が適正か。 ・既存の汎用システムや媒体・アセットを活用し、予算内で最大限の費用対効果を発揮する工夫（提案）がなされているか。	10
合計			100

【採点基準】

各評価項目について、以下の基準により 5 段階で評価し、配点に応じた得点を算出する。

- 5：非常に優れている（配点の 100%）
- 4：優れている（配点の 80%）
- 3：標準的である（配点の 60%）
- 2：やや劣る（配点の 40%）
- 1：劣る・記載がない（配点の 0%）